

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800560		
法人名	株式会社WarmUp		
事業所名	グループホームれもんの樹加美正覚寺		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市平野区加美正覚寺3丁目17-19		
自己評価作成日	令和5年2月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2795800560-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスに対しての取り組みにおいて、当事業所において、職員全員が一丸となってクラスターにならないように、手洗い・消毒の励行・休日にも必要最低限の外出を守り、医療機関にワクチンを利用者全員、および職員全員早い時期に接種して、利用者の安全確保に務めている。
また、アピールしておきたい点は、施設の理念にあるように、3ユニットで報告・連絡・相談し、勉強会特に、身体拘束の勉強会に力を入れている。
利用者様に寄り添った介護をこれからも模索し、職員の介護レベルの向上に繋げていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問介護事業に携わっていた設立者が、一人暮らしの利用者が要介護になり在宅での暮らしが困難になっていく過程を見て、最後まで看られる受け皿の必要性を感じ開設した3ユニットのグループホームです。白い外壁の建物の中は明るい色調で共有空間は広くゆったりとして、整理整頓されたホーム内は、清潔できれいな空気を感じることができます。「1. 利用者様についての報告・連絡・相談の徹底。2. 利用者様の訴えには必ず傾聴する。3. 地域と共に歩んでいく。」を理念に掲げ、職員は実践しています。職員が自主的に行っているメダカの飼育や編みぐるみは利用者の生活に潤いを与え、訪問者の目も楽しませてくれます。職員の中には開設前の訪問介護経験者もいて、在宅時代からの利用者の思いを他の職員に伝え、安心して暮らせる毎日の支援に繋がっています。重度の認知症も受け入れ、職員の介護の力で普通に暮らせる毎日になっています。施設長以下職員一丸となって感染予防に取り組み、コロナ収束の際には利用者全員が元気で地域に出かけ、イベントも楽しめるようにと、今の暮らしを支えているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、3ユニット毎にスタッフルームに掲げて、勉強会等の際には、理念を再確認してから、勉強会を開いている。	「1. 利用者様についての報告・連絡・相談の徹底。2. 利用者様の訴えには必ず傾聴する。3. 地域と共に歩んでいく。」を理念に掲げ、職員は実践しています。理念は玄関や各フロアに掲示し、日常的に確認するようにしています。また、勉強会や申し送り時に、理念に沿った話をしています。	ホーム開設5年にあたり、職員みんなで理念の見直しをされてはいかがでしょうか。自分たちが心がけている事・目指したい事など出し合い、ホームがめざすサービスのあり方を示して、みんなの意識が高まることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状コロナウィルス感染の懸念があり、利用者様には抵抗力が低下しているので、施設内で過ごしていただいているおり、極力面会を制限していたため地域との交流が出来ていないが、感染の懸念が無くなったら、地域の行事に何らかの形で参加して頂こうと考えている。	「地域と共に歩んでいく」を理念のひとつに掲げ、地域との連携を目指していましたが、コロナ禍のため実施できていません。施設長は、地域密着型事業として地域交流の必要性を感じており、地域の人にホームを知ってもらう取り組みを検討していく予定です。保育所からの訪問などが実現できたらよいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウィルス感染症が懸念される中で機会が持てない状況です。懸念が払拭される状況になれば、認知症について学んだことを、施設として何らかの形で地域の人々に貢献したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍にあり、運営推進委員会は開催できていない。	コロナ禍のために、開催できていません。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。コロナの落ち着きも見えてきました。密をさけるなどの感染予防対策のうえ、会議の開催が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当施設は、生活保護の利用者様がほとんどなので、わからないこと、確認したいことを連絡し、市役所のケースワーカーと連携を密にしている。	生活保護を受けている利用者が大半で、生活支援課に行く機会は多く、相談事がある時は、市の介護保険課等で顔を合わせて相談しています。生活保護の人を支援する、社会的意義のあるホームでもありたいとの考えで、一人ひとりがその人らしく暮らせる毎日を支援しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設の指針として年3回以上「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の勉強会を実施して、皆に周知し、試行錯誤しながら、日々のケアに当たっている。	「身体的拘束適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしない支援を実践しています。また、身体拘束や虐待に関する研修を実施し、職員で個人の尊厳を守るケアの確認を行っています。現在、コロナの感染予防対策として、各ユニットの玄関は施錠していますが、敷地内の散歩で外気にふれ季節を感じ、自由な暮らし作りの支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を開き、例えば身体拘束は虐待であるとの関連性についても周知の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の残存能力を活かす勉強会や、成年後見制度については、勉強会にて周知もしくはマニュアルを各フロアにおいて職員個々が学ぶよう指導している。 安心サポートについても何人かが利用されているので、勉強会にて安心サポートについて周知してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居していただく際に、家族様に対しては、施設の方向性や認知症の中核症状・周辺症状に対する説明を行い、理解をもって頂くよう努め、施設に対する安心感と信頼関係を築く努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、コロナ禍の中、面会禁止となっているが、コロナが落ち着いた際には、再びそのような機会を設け、家族様からの電話に利用者様が出て頂くことも多い。	コロナ禍で現在は家族の面会は中止していますが、面会方法を検討していく予定です。面会できない家族の気持ちに伝えるため、毎月請求書を送る際に手紙や写真を同封しています。差し入れの持参時に、窓越しに利用者の様子を見て帰る家族もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議・全体会議を開催し、提案および案件の議論、報告・連絡・相談、質疑応答の場として、日々の介護の向上を目指している。	毎月、会議を開催しています。報告内容や業務について話し合い、利用者一人ひとりのカンファレンスも行っています。毎日のミーティングでも意見や気づきを出し合っています。会議録は、議題の番号にそって、わかりやすく整理されています。外国人介護職員も多く勤務し、職員間のコミュニケーションを密にしています。排泄の自立支援のケースを始め、利用者の事で皆で喜び合える職場環境です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、目標設定に対し実績の評価を行っている。目標設定には職員個々のやりがいなどを織り込んでおり、意欲をもって働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近では、認知症実践者研修をリモート学習を職員に受講させたり、受講経験者を講師に勉強会を開催し、実践的な教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療連携先の法人の介護老人保健施設やグループホームと勉強会等意見交換を行い、お互い切磋琢磨して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント等で本人様の状態を把握、職員と共に共有し、本人様が入所されて最初は、利用者様本人が不安なので、傾聴・職員が間に入り、共同生活をされるお手伝いをしていき、ゆっくりと本人様の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安なこと、例えば認知症のBPSD(周辺症状)はよくあることで、本人様にとっては意味のある事であるとの事例を交えて説明し安心して頂いた件のように、家族様の思いも傾聴しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際に、当施設では、必要十分なサービスを提供できないと判断した場合は、家族への理解を得たうえで対応可能な施設を案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前面接をおこない、ご本人の生活歴等の情報収集に努め、支援の在り方を検討し、言葉にならない思いを汲み取った上で、不安や要望にできるかぎりこたえるよ努めています。 ように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常時報告し情報の共有に努めている。面会時にも情報交換・要望の聴取を行い関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様をはじめ親戚や友人の訪問を時間限定せず随時訪問して頂いている。	コロナ禍前は、家族を通して、友人・知人の訪問がありましたが、今は面会は中止の状況です。職員の中には開設前の訪問介護経験者もいて、在宅時代からの利用者の思いを他の職員に伝え、安心して暮らせる毎日の支援に繋げています。以前から好きだったゴジラのDVDを居室で観て楽しむ利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士で食事やおやつを食べられるように配置し、スタッフが間に入って会話を橋渡しする等の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様、本人様の事情で退去された後も、必要があれば相談、支援を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にユニット間で話し合いをしたり、申し送りノートに記入し、職員全員で生活者様の日々の変化に対応している。個別対応の必要性も職員が周知・実践している。	理念のひとつに「利用者様の訴えには必ず傾聴する。」を掲げ、利用者の話しは「先ず、聴く」姿勢を徹底しています。施設長は、反論しないで最後まで聴くことを職員に伝えています。「人生の荒波を越えてえてこられた利用者は、徳を積まれています。目上の方を敬う気持ちを忘れないようにしています」と職員は話します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時のアセスメントの中で情報を得て、入所後の生活環境に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ひとりの健康状態を把握し、職員がしっかりと情報交換をすることにより、よりよいケアができるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者からの情報を元に話し合い作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは3ヶ月毎に行っています。計画作成担当者は、「利用者の言った言葉を表記する」「名前を見なくても誰の計画かわかる独自性」を心がけて、計画作成にあたっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調面や心理面の変化や実践結果を毎日介護記録に残し情報を共有しており、工夫や見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向や希望に添って、提携外の医療機関への定期的な受診に同行するなど、柔軟な対応を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容・訪問歯科・訪問マッサージの施術を希望者が受け入れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および、家族の希望を大切にし、今までのかかりつけ医を継続できるよう支援している。	内科・外科・精神科・皮膚科を標榜する2つの協力医療機関から、それぞれ週2回の往診があり、緊急時を含め24時間オンコール体制を整えています。利用者はかかりつけ医を自由に選べますが、全員がいずれかの病院の往診医をかかりつけ医に選んでいます。緊急時以外に他科目受診を希望する場合は、原則として家族が同行します。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化がある場合は随時、報告 連絡 相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の診療情報・介護サマリーを提供しご入居者様の健康状態を把握してもらえるよう努めている。 入院中も地域連携と連携しホームに戻ってきてからも安心して過ごして頂ける様、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為の指針を示しています。重度化した際には早期に家族様と十分に話し合いを重ね医療関係者とチームで支援できるように取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については、入居時に本人や家族等にホームの方針を説明し、本人や家族の希望を訊ねています。家族がなく本人の意思表示が定かでない場合は、かかりつけ医と相談し、緊急対応マニュアルに沿って対応しています。これまで看取りの実績はありませんが、「看取り指針」「看取りマニュアル」「看取りケアに関する同意書」を完備し、本人や家族等が希望する場合は、医療機関の協力や助言により看取りケアを行い、最期まで住み慣れたホームで安心して過ごせるよう支援します。	ホームでは今後ニーズが増えると思われる看取りに対応し、受入れ体制を整えています。職員の負担や不安を和らげ、よりよい看取りケアを行うために、終末期や看取りの研修や勉強会を始めてみてはいかかでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制を提示し、実際に実行出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生の際の対応マニュアルは事業所に備えつけており、緊急時の連絡・避難体制の周知を徹底している。	各種災害マニュアルを備え、定期的に消防避難訓練を実施しています。今年度は消防署の協力を得て「消防訓練実地指導」を職員が参加して受けました。食品備蓄では、日頃から食材として利用している調理済み冷凍食品を冷凍庫に多目にストックしています。	災害時に備え食材の備蓄はありますが、水の備蓄が求められます。ホームではBCP(事業継続計画)の策定を進めています。ハザードマップも確認した上で風水害対策を再点検し、地域との協力や感染予防対策を含めた総合的な防災計画の整備が望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を損なわないよう声掛けに注意し、排泄時や入浴時にもご利用者様のプライバシーが守れるように、さりげないケアを心がけている。	「利用者の尊厳やプライバシーの保護」の重要性について管理者は折に触れて話し、接遇の勉強会でも取り上げています。職員はトイレや浴室の扉を必ず締める、居室に入る際はノックする、トイレ誘導の際は小声で声がけする等を心掛けています。日中、利用者が居室で過ごす際、密室にならないよう扉を開けていることがありますが、必ず許可を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、常にご入居者様が選択出来るような言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	慌しいとついつい職員のペースになりがちだが、利用者1人ひとりに合った支援ができるように職員同士で気をつけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族様と相談し、ご希望に添えるよう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューを提供しながら、その方の好きな食べ物や味付け食べたいものを把握して提供を行い食器洗いや食器拭きなども職員と一緒にしている。	パン食の朝食を除き、昼食と夕食のおかずは業者から運ばれた調理済み冷凍食品を再加熱して利用し、ご飯と汁物をユニットのキッチンで作っています。 おやつは職員の手作りが多く、焼き立てのケーキや作り立てのぜんざい、スイートポテトなどが食卓に並びます。利用者も団子を丸めるなど楽しく参加しています。利用者のリクエストで黒糖を使ったお菓子もつくりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握出来るように書面に記入し、普段との変化に気づけるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否が強い方も居られるため毎食後全員というわけではないが、出来る限りの誘導と介助を行っている。また歯科往診にて口腔ケアを行い、状態の報告と指導と受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間やパターンがわかりやすいように排泄チェック表を設け、排泄パターンが把握しやすいようにしている。チェック表をもとに職員が話し合い、トイレの声掛けをする等している。	排泄チェックリストを付けて自立に向けた排泄ケアに力を入れています。職員の一人は「排泄は食事以上に大切。排泄の改善でいろんな機能が改善します」と胸を張ります。事例として入居当時、不穏から全裸になる利用者に対し、適切なトイレ誘導することで周辺行動がなくなり一人で排泄できるようになったケースや、座位でのトイレ介助で、おむつからパンツに戻り、車椅子から立位できるようになった利用者があります。トイレは各ユニットに3室あり、夜間も声がけ誘導だけでなく、自分から起きてトイレに行く利用者もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分摂取、運動を通じ自然排便を促してはいるが、便秘の時には医師の指示にて対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の訴えある時はなるべく、その時にできる形で支援し、入浴剤などを取り入れ楽しんで頂けるように支援している。	ゆったりとした浴室でマンツーマン入浴を行っています。立位や座位が難しい方も2人介助や機械浴で浴槽に浸かっています。利用者は週2回、原則、日中の決まった曜日に入浴しています。気分が乗らない時は、時間や日を変えるほか、担当者を変える、入浴剤を選んでもらう、たっぶり湯のはった浴槽を見せてから誘うなどしてスムーズな入浴につないでいます。希望に応じて同性介助も可能です。昨年の冬至には利用者家族から届いた大量の柚子を湯船に浮かべて贅沢な時間を楽しみました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や状況や生活暦を配慮し、休憩時間を設け、安眠できるよう支援している。夜間も照明の調整、室温の調整を行い安眠出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の情報は職員がすぐに確認できるところに保管されている。又薬の確認時に使用する表に効能など記入してある。服用後の状態確認を行い医療との連携をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般での様々な協力をお願いするなど、頼られる、必要とされている、と感じていただけるような支援が出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の外気浴や暖かい日の日光浴で重度の人であっても戸外に出るように努めている。	コロナ禍で外出機会が大幅に制限される中、日常的に職員が同行し1~2名単位ですぐ近くの公園を散歩したり、メダカの水槽などがある1階の玄関ホールまで館内散歩をしたりしています。玄関前の広場で日光浴をすることもあります。新型コロナ感染対応が緩和される今春はホームの近くにある桜の美しい加美霊園での花見を計画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であればご本人様でお持ち頂く事は、紛失の際こちらでは責任がとれないことを承諾の上でお持ち頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援させていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションの一環で利用者様と時期に合わせた飾り付けを行うようにしている。	共有空間は明るく、隅々まで掃除が行き届き、床も観葉植物の葉もピカピカです。オープンキッチンのある居間兼食堂は大きな木製テーブルや大画面テレビがあり、リビングを取り囲むように居室が配置されています。利用者は横になりたい時や個別に見たいテレビ番組があれば居室で過ごすなど好きな場所で気ままに過ごしています。1階エントランスにある四季折々のかわいい編みぐるみや、メダカが泳ぐ美しいアクアリウムは職員の手になるもの。ユニットの壁面にも職員が描いた雛壇人形の絵や、利用者が知りたい高校野球の対戦表を貼るなど、シンプルな空間にぬくもりが漂います。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所を見つけておられるご利用者もいる。リビングのソファで過ごされたり、ユニット間を歩き来されたり、お部屋で過ごされたりと、思い思いにお過ごしいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には想いのある家具や日用品を持参していただくようお願いをし、お部屋の中でも本人様が安心して過ごせる空間作りを家族様と連携し取り組んでいます。	電動ベッドと寝具、カーテン、タンス、テレビ台を備えた居室に、利用者や家族は好きな家具やテレビを持ち込み、写真やカレンダー等を飾っています。居室も整理整頓され、家族がいない利用者には、職員が本人と一緒に好きな趣味の雑貨を飾ったり、専用テレビを用意したりする等、「その人にとって居心地のいい」居室づくりを支援しています。(主に聞き取りで確認)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での単独転倒が考えられる場合など、状況によっては家具の配置を考え、ご本人が安全で動きやすいように工夫している。		